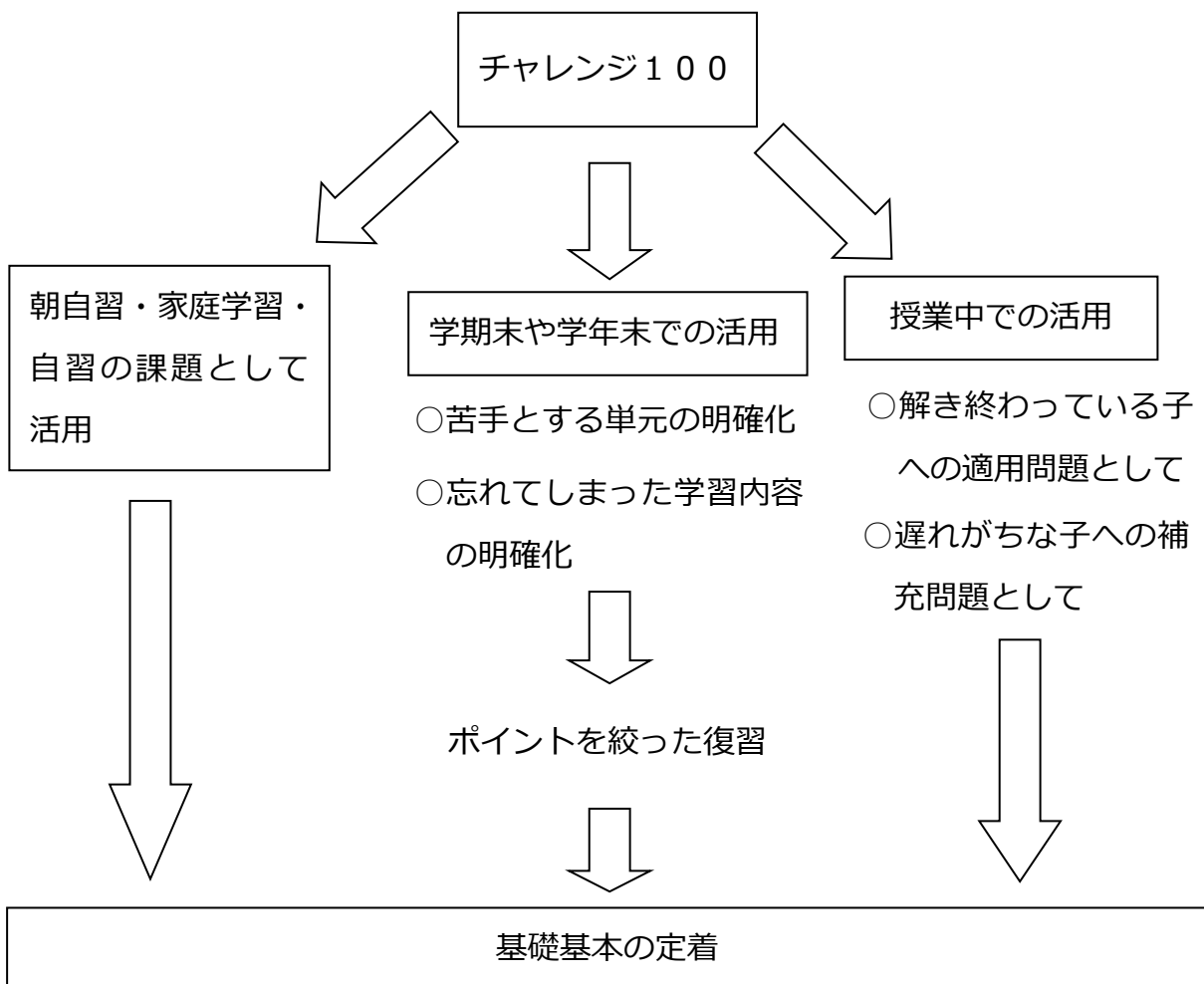


ちばっ子チャレンジ100

活用事例

概 要	
学 校 名	習志野市立大久保小学校
活用の仕方	担任が必要とするページをプリントアウトしている。朝自習や家庭学習の課題として、また、授業の終わりにも補充問題や適用問題として活用している。比較的問題数が少ないので短時間でも取り組みやすい。
成 果 等	いろいろな単元の学習が網羅されているため、学期末や学年末などに活用すると、その児童の苦手とする単元等がはっきりする。そのため、ポイントを絞って復習することができ、基礎学力の定着が図られる。



ちばっ子チャレンジ100

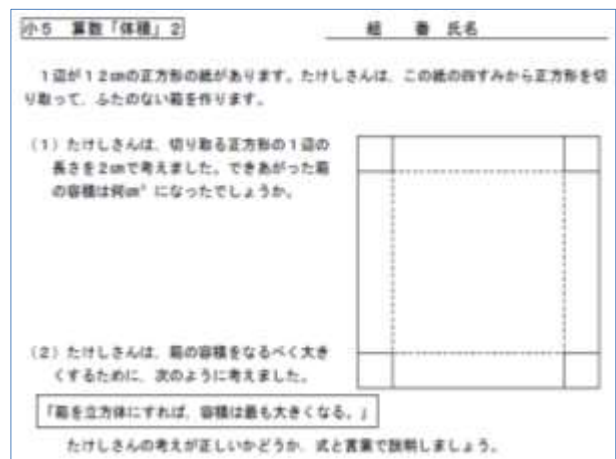
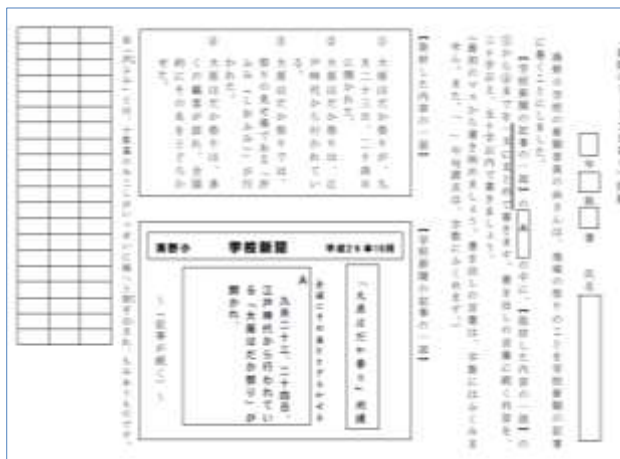
活用事例

概 要	
学 校 名	鎌ヶ谷市立南部小学校
活用の仕方	「ちばっ子チャレンジ100」は、授業のみならず、家庭学習や自習課題など幅広い場面で活用している。加えて、本校では毎週火曜日を「応用の時間」、金曜日を「算数の基礎の時間」と設定し、全学年で統一して朝学習に取り組んでいる。
成 果 等	記述式問題の経験を積むことで、自身の考えを発表したり書いたりできる児童が増えている。そのため、授業中の話し合いに積極的に取り組むようになり、成長を感じている。職員の課題作成時間の短縮にもなっている。

【本校の朝学習の内容】

月	火	水	木	金
書き写し	応用の時間 (ちばっ子 チャレンジ100)	国語 基礎基本	全校朝読書	算数 基礎基本

毎週火曜日・金曜日は継続して「ちばっ子チャレンジ100」を活用している。火曜日においては、本校の課題である記述式問題を中心に取り組んでいる。



ちばっ子チャレンジ100

活用事例

概 要	
学 校 名	我孫子市立湖北小学校
活用の仕方	算数の授業の練習問題として取り組んでいる。授業進度に合わせて必要な問題を担任が精選している。担任が必要数分を印刷し、授業で活用している。解答は各教室に用意し、児童が自己採点できるようにしている。3・4年生では週1回、学習サポーター・学習支援ボランティアと担任が協力し、チームティーチングで個別指導を実施している。
成 果 等	「ちばっ子チャレンジ100」や自作のワークシートから問題プリントを用意し、実態に合わせてレベル1から難易度を示して活用することで、学習意欲の向上を感じることができた。また、学習している単元の復習を行うことで、内容の定着を図ることができた。問題プリントの作成に係る時間を縮減することができ、大変役立った。

《チームティーチングの流れ》



学習内容の説明

学習している単元の練習問題を中心に構成する。1枚終わったら次のプリントを取ることができる場の設定をしている。



練習問題

事前に学習サポーター・学習支援ボランティアと学習内容の共通理解を図り、分からない問題には個別に対応する。



自分で丸つけ

プリントを1枚解き終わるごとに、学年掲示板に掲示してある答えと照らし合わせて自分で丸つけを行う。



先生のチェック→次のプリントへ

自分で丸つけたプリントを担当に見せる。間違えた問題はやり直しをさせる。次のレベルの問題をプリント置き場から自分で取り、学習を進める。

ちばっ子チャレンジ100

活用事例

概 要	
学 校 名	松戸市立殿平賀小学校
活用の仕方	放課後算数教室（全学年で年間15回程度実施）の習熟度別学習の時の課題プリントとして活用している。 また、普段の授業の学習のまとめや家庭学習で定着を図るために使用している。
成 果 等	放課後算数教室では、単元ごとに資料が豊富であるため、習熟度別学習において、とても使いやすく、学習が定着するためとても役立っている。問題の数もちょうど良く、印刷してすぐ取り組みやすい。 授業・算数教室・家庭学習で取り組むことで学習内容の理解がより深まってきている。

放課後算数教室での活用例



『じっくりコース』
先生と一緒に課題に取り組み理解を深めている様子

『どんどんコース』
自分一人で課題を進めたり、先生と一緒に考えたりして取り組み理解を深めている様子



『すいすいコース』
自分自身でプリントを選び、多くの問題に取り組み、理解を確実にしている様子

ちばっ子チャレンジ100

活用事例

概 要	
学 校 名	松戸市立馬橋小学校
活用の仕方	算数が苦手な児童を対象に行っている「補充学習」での教材にしたり、毎週金曜日に家庭学習として取り組み、保護者に丸つけをお願いしている金曜日プリント、通称“金プリ”の教材として活用したりしている。
成 果 等	職員が必要だと思う単元を素早く選択することができ、児童に応じて取り組ませることができる。答えも付いているので、児童自身や保護者が丸をつけることができ、苦手なところをすぐに把握することができる。課題作成の時間短縮にもつながっている。

インターネットの検索エンジンで「ちばっ子チャレンジ100」を検索必要な学年、単元を選択してプリントアウト。

〈学校での活用方法〉



プリントアウトただけで、自習や補充学習にすぐに使える。「どの学年」の「どの単元」も自由に使うことができる。



〈家庭での活用方法〉



金曜日にプリントと解答を配付



家庭学習として取り組む。採点は保護者の方にしてもらう。
※保護者の方も一緒になって家庭学習に取り組み、得意、不得意が分かるように採点をしてもらっている。



休み明けに学校に提出

ちばっ子チャレンジ100 活用事例

概 要	
学 校 名	印西市立大森小学校
活用の仕方	算数の計算領域に限り、問題のプリント（該当学年と下学年）を印刷し、常時各学級に置いてある。児童は自分のやりたいプリントを選び、朝学習やすき間の時間、宿題等で自主的に取り組めるようにしている。
成 果 等	自分で問題に取り組み、答え合わせ、直しの流れが身につく、自主的に学習に取り組めるようになった。また、計算に対する苦手意識が少なくなり、意欲の向上も見られる。

↓プリントを入れる棚。



↓自分で行いたい問題を選ぶ。



↓自分でプリントに取り組む。



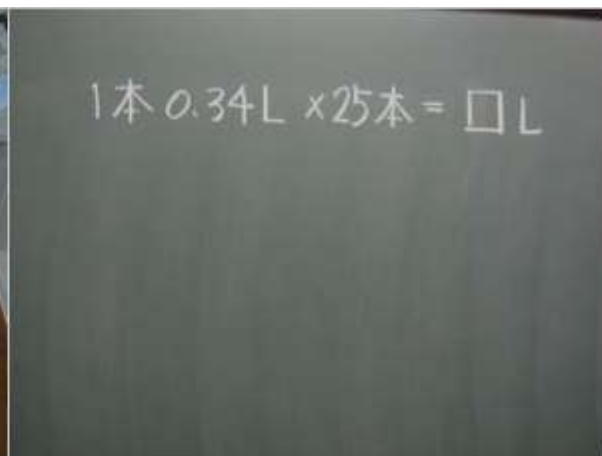
ちばっ子チャレンジ100

活用事例

概 要	
学 校 名	印西市立宗像小学校
活用の仕方	国語科の「言語」に関する問題や理科の問題、算数の計算問題など、補充の必要がある内容について印刷して取り組ませた。朝自習や宿題として配付し、学習内容の定着を図った。
成 果 等	ドリルやワークテストとは違った問い方に慣れ、問題を理解して適切に解答する力が向上した。教師が手軽に活用することができ、児童も短時間で取り組むことができた。




算数科の計算問題は、朝自習等で取り組むにはちょうどいい問題数である。



短時間で行い、その後に答え合わせや解説も十分に行うことができる。

ちばっ子チャレンジ100

活用事例

概 要	
学 校 名	富里市立富里第一小学校
活用の仕方	<p>国語, 算数, 理科のすべての問題をプリントアウトしてファイリングし, 各学級に据え置きでいつでも活用できるようにしている。学級担任が必要に応じて印刷し, 朝自習や授業内, 家庭学習等の課題として活用している。解答も各教室に準備しており, 自己採点できるようにもしている。</p> 
成 果 等	<p>基礎基本の定着, 活用能力の向上を図るために活用してきたが, 第6学年で実施した全国学力・学習状況調査の国語A及び算数Aにおいては, 徐々に成果が表れてきている。</p> <p>また, 子どもたちの学習意欲の向上にもつながっている。</p> <p>さらに, プリントを常備することで, 教職員が朝自習や家庭学習等のための教材作成に係る時間を縮減することができ, 役立っている。</p>

ちばっ子チャレンジ100

活用事例

概 要	
学 校 名	香取市立栗源小学校
活用の仕方	各学年の国語科・算数科のすべてのプリントを印刷し、ファイルした物を学年で保管している。担任が必要分を印刷し、家庭学習やはげみタイム ^{※1} 、チャレンジタイム ^{※2} の課題として活用している。
成 果 等	国語科・算数科を中心に基礎・基本の定着が図られ、平成28年度の全国学力・学習状況調査では、国語科・算数科のA問題、B問題、領域別、問題形式別において、全国平均をすべて上回った。

※1 はげみタイム … 月・水・金曜日の朝の10分間に漢字・計算のプリントやミニテストに取り組み、基礎・基本の定着を図っている。

※2 チャレンジタイム … 学校裁量時間に、学習支援ボランティアの協力を得て、読み・書き・計算のドリル学習等を中心とした個別指導等を行い、一人一人の基礎的な学力の定着を図っている。1年生週2時間・2年生週1時間実施している。

☆チャレンジタイムの様子



学習支援ボランティアが個別指導

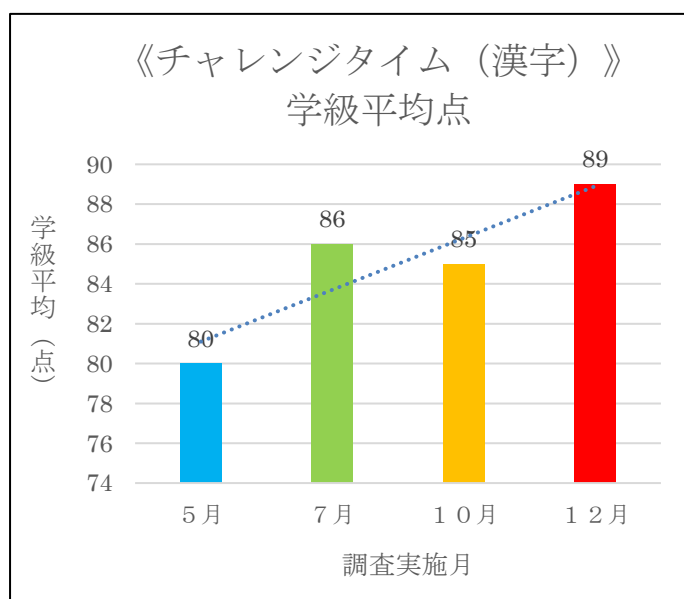


「ちばっ子チャレンジ100」を活用

ちばっ子チャレンジ100

活用事例

概 要	
学 校 名	銚子市立豊里小学校
活用の仕方	<p>国語・算数のすべての問題をプリントアウトし、ファイリングしたものを各教室に配付、担任が必要に応じて印刷する。</p> <p>毎朝、登校して学習用具の準備を整えてから、別室にて、用意した(国語・算数)プリントに取り組みさせた。解答は教室前面の教師の机に置き、自己採点を行わせる。終了した児童は「ミニ先生」として、他の児童のプリントの採点を行わせた。</p>
成 果 等	<p>朝の支度が早くなり、時間内に取り組めるプリントの枚数も、徐々に増えていった。結果、学習内容の定着化がなされ、毎週水・金曜日に全校で取り組んでいる「チャレンジタイム」の小テストのクラス平均点が、1学期より約10点アップしている。また、児童の学習意欲も向上し、朝自習に自主的に取り組める児童が100%に達した。</p>



資料1：チャレンジタイム(漢字)の平均得点の変容



写真1：朝自習の様子



写真2：自己採点・ミニ教師の様子

ちばっ子チャレンジ100 活用事例

概 要	
学 校 名	匝瑳市立平和小学校
活用の仕方	国語、算数の問題をプリントアウトし、職員室の棚に学年ごとに問題と解答をファイルにして保管。担任が必要枚数を印刷し、授業中の補充問題および朝自習や自習の際の課題として実施。
成 果 等	教科書の練習問題を早く解き終えた児童に、補充問題として与えることで学習内容の定着を図ることができている。急きょ担任が不在となってしまった際等の課題を準備する時間の短縮につながっている。



職員室の棚に教科・学年ごとにファイルを保管。



チャレンジタイム（朝自習）の様子。児童の理解度を把握したり、学習内容の定着を図ったりすることに有効。



ちばっ子チャレンジ100

活用事例

概 要	
学 校 名	いすみ市立中川小学校
活用の仕方	<p>○朝自習や家庭学習で活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国語, 算数の問題を印刷し, 朝自習や家庭学習のプリントとして活用している。 <p>○いすみ市オープスタディ「たけのこ塾」での活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「たけのこ塾」は毎週月曜日の放課後 1 時間程度, 3~6 年児童を対象に国語, 算数の基礎学力向上のためにボランティアを講師として行われている。そこで, 教材として「ちばっ子チャレンジ100」を印刷し, 単元の進度に応じて活用している。採点はボランティアが行い採点と同時に指導も行う。
成 果 等	<p>○学年の算数の進度や個々の児童の実態に応じて活用している。そのため, 個々の児童の振り返りになり, それぞれの児童の習熟を図ることができる。</p> <p>○「たけのこ塾」で使用するプリント類は各学校に任されているので, 印刷して活用できる「ちばっ子チャレンジ100」は, プリントを作成するうえで活用しやすい。</p>

○「たけのこ塾」の様子
(右の写真)

○いすみ市オープスタディ
「たけのこ塾」について

- ・いすみ市の施策として平成 19 年度スタート (旧 岬町の施策を引き継いだもの)

- ・重点「学習指導の改善と質的向上～基礎的な知識・技能の定着 (たけのこ塾による個別指導の拡充)～」

- ・目的 算数科・国語科の基礎・基本の定着を図る。

- ・対象 いすみ市内小学 3~6 年生 (各小学校ごとに実施)

- ・内容 週 1 回 1 時間程度, ドリル学習を中心に基礎学力の定着を図る。

そのほかに夏期講座を実施 (5 回程度)

使用する教材は各学校に任されている。



ちばっ子チャレンジ100

活用事例

概 要	
学 校 名	白子町立関小学校
活用の仕方	算数の問題を全てプリントアウトし、進度が分かるように表紙を作成して冊子にして一人一人に配付した。実施日や合格印を押す欄を設けることで、友達と競い合ったり、協力したりしながら取り組む姿が見られた。
成 果 等	基礎基本の定着が図られ、第6学年で実施した全国学力・学習状況調査では算数A、算数Bとも全国平均を上回る成果が見られた。学年末のまとめ、ふり返りの時期では、算数が終わった児童は、家庭学習として国語や理科にも順次挑戦するなど、充実した取組となった。



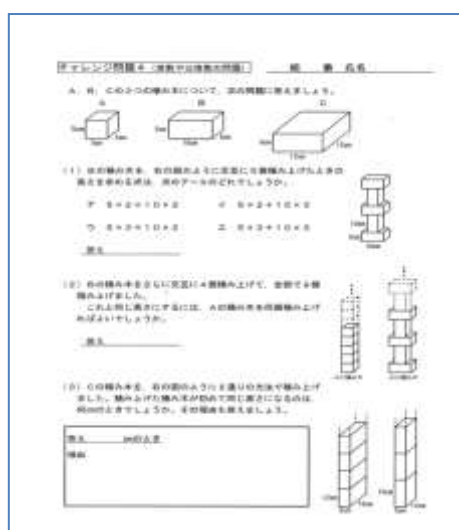
ちばっ子チャレンジ100

活用事例

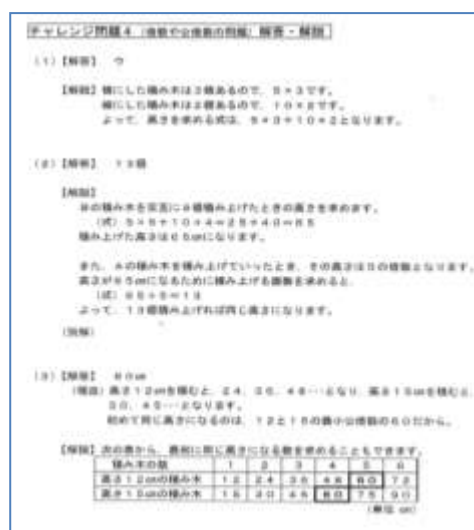
概 要	
学 校 名	館山市立那古小学校
活用の仕方	国語、算数の問題をプリントアウトし、印刷室の棚に学年・教科別に原版を保管している。担任が必要に応じて人数分印刷して活用している。また、高学年の廊下にかごをおき、プリントを定期的に補充し家庭学習用に活用できるようにしている。問題の裏に解答を印刷して、自己採点できるようにしている。
成 果 等	家庭学習への取組が意欲的になった。授業でも発展的な学習として取り上げており、難しい問題にも挑戦しようとする姿が見られるようになった。第6学年の全国学力・学習状況調査でも、全国平均を上回る成果が見られた。

このようにかごを用意し、定期的にプリントを補充している。

家庭学習用(自学)として自由に活用できるようにしている。



<表面>



<裏面>

ちばっ子チャレンジ100

活用事例

概 要	
学 校 名	君津市立小櫃小学校
活用の仕方	主に国語・算数の問題の中から、理解度に課題があると思われる単元の問題を、各担任がホームページからその都度ダウンロードし、「朝学習」や授業中の補助教材、家庭学習の課題として活用している。
成 果 等	出題のポイントが絞られていて、問題数も適度であるので、「10分間で実施、5分間で担任による指導と答え合わせ」という「朝学習」の流れに合っている。それを繰り返すことにより、児童は無理なく問題に取り組み、特に基礎・基本の定着が図られている。

平成28年度学力向上推進計画（抜粋）

4. 具体的な取組

（2）朝学習の充実

○朝読書（月・火・木曜日）

○朝学習（水・金曜日）

①ねらい 基礎基本の定着を図る。

②方法 8：05までに朝学習の用意を済ませる。

8：05～8：15 問題を解く・丸つけ・指導まで行う。

8：15に放送で言葉が流れたら、朝の会を行う。

※5分程度で解き終わる問題量にし、丸つけ・指導の時間を確保する。

※指導事項は、ワンポイントとなるようにする。

※「ちばっ子チャレンジ100」やドリル、プリントなどを活用する。

（4）学力向上月間の設定

①ねらい 学期の学習（3学期は1年間の総復習）を振り返り、復習することで基礎学力の向上を図る。

②方法 ・学力向上月間は、朝読書と朝の歌をやめて、全ての曜日に朝学習を行う。

・8：05～8：20まで時間を延長する。

1学期・・・ 7月 1日～ 7月19日（終業式前日まで）

2学期・・・ 12月 1日～12月21日（終業式前日まで）

3学期・・・ 1月10日～ 2月15日（県標準学力検査の前日まで）